

【 出会い 】

happy encounter

一流との出会い

創A子

「一流にふれなさい」とはよく言われることですが、一流にふれることの効用を非常に強く実感した、あるカフェとの出会いがありました。

そのカフェとは、お世話になっている人に連れられて行った、銀座にある「ロイヤルクリスタルカフェ」というカフェです。赤い絨毯が敷かれた階段を降り、重厚な扉を開けると、高級ホテルを思わせるような空間が広がっています。一つ数万円もする食器や大きなお花、本物の調度品に囲まれた店内は、まるでサロンのようで、壁や天井、床に至るまでこだわりが感じられます。某有名コーヒーチェーンの創業者様が、全ての理想を詰め込んで創った空間だそうです。スタッフの方々の対応もプロ意識が高く、そこにいるだけで、自然と背筋が伸びます（ちなみに、お手洗い、お手洗いに向かうまでの空間にも相当こだわりがあるので、ここに行かれた際は是非、お手洗いに行くことをお勧めします）。

初めてこのカフェを訪れた際、とても緊張するとともに、感動したことを今でも覚えています。その場にいるだけで、自分が洗練されるような、自然と振る舞いが変わるような、そんな不思議な感覚を覚えました。もちろん、普段からそんな振る舞いを意識できればいいのですが、環境が及ぼす影響は偉大だと、強く思ったものです。

「一流にふれること、一流のものと出会うこと、それは自分自信の品格に繋がる」ことが、以前はあまり理解できなかったのですが、このカフェと出会ってから、その意味が分かるようになりました。日々の環境・ふれるものに影響を受け、自分が形作られるのですから、できるだけいいものにふれ、いいものに出会いたいですね。気持ちを引き締めたい時に、また伺おうと思います。



分岐点

はれおとこ

これまでの人生を振り返ると、自分には2つの大きな出会いがありました。

1人目は、大学院時代に研究でお世話になった教授です。基本的に、まず学生自身でどうしたらよいかを考え、まず試してみなさいという方針です。定期的な発表会のときには、質問をされますので、そのときに自分の考えを述べられるよう指導されました。この方法により、責任感と自主性が自然と鍛えられたように思います。普段は全く放置されているでもなく、ふらりと学生のところに寄っては話を聞いてくれたり、困っていれば相談にも乗ってくれたりとフランクな方でした。

そんなある日、海外留学の提案を頂きました。自分の研究で手一杯であった私は、留学、それも海外なんて考えたこともなく、それでも「良い経験になるから行ってきなよ」と背中を押してくれました。行き先が英語圏ではなく、苦勞もしましたが、そこで出会った多くの友人にも刺激をもらうことができました。その経験は今も、自分の考え方に大きな影響を与えていると思います。

2人目は、企業に就職してから出会った上司です。この方は、研究の悩みや自分のアイデアをよく聞いてくれる方でした。転職の話をしたときも、長時間にわたって引き留めてくれ、最終日には「次の仕事で必要になるだろう」と万年筆をくださいました。今の業界に移って、右も左もわからないヒヨッコでしたので、一人前(少なくとも半人前)になるまではその万年筆を使わないと決め、本棚に飾っていました。

その方には毎年、年賀状を送っていたのですが、これまでに返ってきたのは一度きりです。いつしか年賀状を送るのを少し控えるようになっていました。仕事にも慣れてきて、ステップアップすることもできたので、唯一頂いた年賀状を探してだして、今年は年賀状を送りました。相変わらず、返事はきませんでした。いつかまた会えるのを楽しみにしているところです。

